

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098000062		
法人名	社会福祉法人 光和苑		
事業所名	認知症対応型グループホーム かすみそう		
所在地	〒800-0337 福岡県京都郡苅田町大字稲光1244番地		TEL 0930-26-9020
自己評価作成日	平成31年02月01日	評価結果確定日	平成31年03月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成31年03月06日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年3月に開所1年に満たないので、試行錯誤を重ね取り組みを行っている。認知症をお持ちの方の特性であったり、生活歴などを職員が十分に理解して、日々の生活が自分の家と思えるように、「ゆっくり」「楽しく」「共に」をモットーに、楽しい生活が職員とのなじみの関係で送れるようにつとめている。心身の管理では常勤の看護師が通院を行い、医師との連携で体調の変化などの把握をしている。また、高齢であるためADLの低下もあるため食事形態、歩行、排せつなどは日々観察を怠らない。自立に向けた取り組みとして、おむつ外しも試みている。食後の口腔ケアはできる方はご自分で行き、入れ歯などは職員がチェックを入れるようにしている。居室、トイレには鍵がかかるようになっているため、一人になれる空間もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「かすみそう」は、平尾台を一望できる自然豊かな環境の中、母体社会福祉法人の多くの事業所が集まる福祉村の一角に1年前に開設した、1ユニットのグループホームである。法人全体で取り組む、「なんだかんだ祭り」には2千人、「地域応援餅つき大会ふれあい祭り」には9百人を超える参加があり、地域の祭りとして定着している。敷地内の「いなみつ村」では、無料講座を開催し、障がい者、高齢者、地域住民の交流の場となっている。配食される食事を温めて提供しているが、園庭で育てた野菜を献立に採り入れたり、ケーキ作りに挑戦する等、「食」を楽しめるよう工夫している。経験の長いホーム長を中心に人柄の良い職員がまとまり、「ゆっくり」「たのしく」「共に」をモットーに、「自分の親だったら」と常に自問しながら愛情一杯に利用者へ寄り添っている、グループホーム「かすみそう」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であれ本人の意思を尊重し関わりを持つ。例えば決まった時間にトイレや食事を強要しない。	法人理念、「人間尊重・社会自立・開かれた施設」を掲げ、会議や法人研修の折に振り返り、理念の共有に努めている。ホームでは、「ゆっくり・楽しく・共に」をモットーに、利用者がその人らしく安心して生活できるよう、支援に取組んでいる。	法人理念やホーム独自の目標を掲示し、定期的に唱和する等、振り返る機会を設け、理念や目標を大切にすることで職員の意識の統一に繋げていく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、冬まつり、また地域の清掃を行う中で地域の方々と交流している。	法人全体で、地域住民への感謝の気持ちで取り組む、夏祭りや冬まつり、「いなみつ村」で開催される無料講座(カラオケ、生け花、書道等)やイベントに参加して、地域住民と交流している。年2回行われる地域の環境美化活動にも利用者に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、見学などに来た際にはありのままの支援方法を見ていただく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度委員の方々に集まっていたり、その中で報告、話し合いを行っている。	運営推進会議は、利用者代表、家族代表、地域代表、苅田町職員、包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。行事や利用者の状況報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、出された内容をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設して1年に満たない為、わからないことが多く、絶えず町の職員に尋ねている。	開設1年目であるため、ホーム長は疑問点等を逐一行政窓口にご相談し、空き状況や事故等の報告を行う等、協力関係を築いている。また、ホーム長が、高齢者推進委員会の委員のため、行き来しながら行政との情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方向で取り組み、研修などを行い職員には周知してもらう。	年間研修スケジュールの中に、身体拘束廃止についての研修を2回取り入れ、職員会議の時に行っている。禁止となる具体的な行為について確認し、利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛け、言葉による抑制等にも注意しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、職員間でこれはと思ったときに話し合いを行ったり、注意をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修でいつも行っている。ここでも保佐人を利用している方がいるため、後見人、保佐人、補助人の違なども理解できるようにしている。	法人研修を受講したり、権利擁護に関する制度を活用している利用者の保佐人とのやり取りの中で、制度についての理解を深めている。また、制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、内容や申請方法を説明できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約書を記入していただくうえで、疑問に思うことを理解できるように話を進めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を作り設置し要望などがあった場合は職員会議で検討するようにしているが、今のところ要望は入っていない。	担当職員が利用者の様子を記した報告書、「かすみそだより」を見にホームに来て貰う等、意識して面会の機会を設け、家族との交流に努めている。その中で、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。また、玄関に意見箱を設置している。	年1、2回、行事を兼ねた家族交流会を開催し、ホームと家族、家族同士の交流を図り、共に利用者を支える関係を築いていく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、ミーティングなどで意見が言えるような雰囲気を作っている。	職員会議を月1回開催し、意見や提案を出し易い雰囲気の中、活発な意見交換が行われている。出された意見や提案は検討し、ホーム運営や業務改善に反映させている。また、ミーティングノートを見ることで、欠席者についても情報を共有出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の幅は経験、資格などを考慮し、実績などは半年ごとに見直しを行う。 子育て応援として無料の託児施設を設けている。 有給、公休は本人の希望を優遇している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の能力を出しやすい環境を作り、採用後は新人研修を行いながら、行っている。 性別や年齢などは特に気にしていない。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていない。法人全体で、人材育成に力を入れており、法人研修やホーム内研修等、学ぶ機会は多い。子育て支援として、無料の託児所を併設する等、働きやすい職場環境を整え、開設1年目であるが、職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の研修で取り組みを行う。	利用者の人権についての研修を、毎年必ず法人研修の中で取り上げ、職員への意識づけを行っている。特に、親しさからくる言葉の乱れなど、気づいた時にはお互いに注意し合い、利用者を敬い、一人ひとりに寄り添う介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2月に法人の研修会がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行橋市にあるグループホームに出向き、交流や勉強を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを中心に担当職員も一緒に傾聴する時間をとっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経験をもとに自分の家族だと思って家族さんの話も傾聴できる雰囲気を作っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が入居前に住んでいる場所へ出向き、ここでできるサービスを話しその時の状況もしっかり見極める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に食事を食べたり、洗濯を干したり、畳んだりとできることを一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かすみそうであったことを、担当、ケアマネ、看護師から報告を行っていく中で家族との関係を取り、また、帰省した時などは自宅でのことを詳しく聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	担当を決め何かがあった時に寄り添い、傾聴ができるようにしている。	家族に面会に来て貰えるよう声を掛けたり、家族が近所の方を連れて面会に訪れる等、これまでの関係が途切れないよう支援している。敷地内の「いなみつ村」での交流や家族との外出、自宅への一時帰宅等、利用者の馴染みの関係を大切に支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテレビを中心にソファに座り、車いすの方もソファに移乗して、お互いが話しやすい環境を作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏祭りや冬まつりのDMを出したりすることで、かすみそうとの関係が経たれないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何をしたいと言えない方が多いので、生活史などを家族に聞いて共有できる話ができるようにしている。	入居時に利用者一人ひとりの昔の話、エピソード等を、「生活史」として書いてもらい、会話や対応のヒントにしている。意志を伝えることが困難な利用者には、職員が利用者寄り添って声をかけ、その表情や仕草から、思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や担当、ケアマネ、看護師、利用していたサービス事業所などから趣味や生活スタイルについての聞き取りを十分に行う。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないこと、やりたいこと、やりたくないこと等を普段の様子から見極め、その人らしい暮らし方ができるように支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、スタッフ、医師等と情報を共有し、共通の課題、意識をもってケアにあたるように計画を作成している。	利用者や家族の希望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを行い、利用者本位の介護計画を作成している。入居後は1ヶ月、その後は3ヶ月毎に見直し、利用者に状態変化があれば、家族や主治医と相談し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況をわかりやすく記録し、利用者の思いや心身の変化を知ることによって柔軟な対応ができるように心がけている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の思いを知り、スタッフが個々に対応できるよう意識、体制を整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公民館から絵本や紙芝居を借りたりしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医(苅田内科整形外科クリニック)のところへなるべく受診するようにし、ここにはない受診科は家族と相談して適切な支援を行っている。	契約時に、利用者や家族と話し合い、主治医を決めている。ホーム協力医を含め、ホーム職員が受診に同行し、結果を家族に報告して、情報の共有に努めている。日頃の状態変化については、ホーム看護師に相談しながら、迅速に対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護師が一人いて、体調管理、薬の管理、受診などでドクターとのやり取りを行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をしなくてはいけない状況になると、ここでの情報を病院のソーシャルワーカーに伝えている。病院との関係は良好だと思う。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護5の方の受け入れもい、呼吸器をつけるまでここでの暮らしを行った。他にも要介護の方がいるが、見取りはできなくても家族と相談しながらできるだけ長く一緒に過ごせるように努力をしている。	契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と連絡を密に取りながら、主治医の意見を聞いて方針を決定し、ぎりぎりまでホームで暮らせる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に、初期対応の研修を行ったり、けがや、発熱の対応の取り組みを現場を見ながら身に付けられるようにしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホームの周りに他の事業所があるので、法人全体で協力体制を作っている。	年2回、グループホーム独自の避難訓練を行い、通報装置、消火器の使い方、避難経路、避難場所、周囲の事業所との協力体制の確認を行っている。災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の備蓄も行き、期限切れの無いようチェックを行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬い守れるプライバシーは守っている。また、居室のカギ、トイレのカギは今までの習慣で、かけている方はかけていただき、時間が長くなっているときなどは声掛けを行っている。	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、常に話し合い、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。特に、入浴や排泄の場面では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応を行っている。個人情報取り扱いや職員の守秘義務についても周知に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事で刻み食の方たちに、うどんなどの場合刻んだほうが良いのか、そのままが良いのか等を聞いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から本日何をしたいといわれることはほとんどないので、選択できるように話をし、一緒に決めていく。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でその日に着る洋服を選んでもらったり、髭剃りなども自分からきれいにしたいと思えるように鏡を見て浴びてもらったりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部から持ってきてもらっているが、畑にホウレンソウや大根などを植え、職員と一緒に取りに行き、洗って汁に入れたりしている。裏山のセリを採って白和えなども一緒に作ったりもしている。	外部から配食される食事を温め、盛り付けて提供している。ホームの畑で採れた新鮮な野菜を利用者と収穫して献立に採り入れ、季節感を楽しめるよう努めている。ケーキ作りや干し柿作りにも挑戦し、作って食べる楽しみの支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表の記入を行い、水分不足にならないように心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行い、状態が悪い方には歯科の協力医に診てもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護5の方の状態が良くなってきたので紙おむつから紙パンツに変更してトイレでの排泄ができていたが、寒くなってくると立つことが難しくなってきた、無理をせず現在は紙おむつになっている。今後もできる方はなるべくおむつ外しを行っている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。オムツ外しにも挑戦し、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの方が便秘なので、麦茶、緑茶、コーヒー、紅茶等日によって食事以外の水分は工夫を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在のところ入浴日、時間帯はこちらで決めている。	現在は、基本的には週2回の入浴となっているが、必要時には、その都度シャワー浴で対応している。入浴は、利用者と職員がゆっくり話ができる大切な時間と捉え、利用者の思いを聴き出している。また、入浴を拒む利用者には無理強いせずに、清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの方向や、高さ、角度などを都度確認を行いながら、支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に、身体の変化などがあった場合は受診して、その結果を詳しく報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	法人の中で、「いなみつ村」という講座を展開しているので、できる講座を選んで参加している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は希望を把握したりはできていないが、初もうでや祭りなどに行っている。	気候の良い時期には、バスハイキングや紅葉狩り等に出かけ、気分転換を図っている。又、系列事業所の祭りに参加したり、園庭での芋掘りや野菜の収穫、ウッドデッキでの日光浴等、出来るだけ戸外に出て外気に触れ、四季を肌で感じられるよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行えていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できていない。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス、お正月、ひな祭りなどは行事として取り入れている。	開設1年目で、新築平屋建てのゆったりとした造りで、リビングとダイニングのスペースは広々として、明るく開放的な共用空間である。手作りの作品や季節毎の飾り等で、生活感や季節感を採り入れている。ウッドデッキや園庭等、戸外へ出られる環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビを中心にソファに座り、車いすの方もソファに移乗して、お互いが話しやすい環境を作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お孫さんの写真や、今まで使用していたいすなどをもってきている。	入居前に、利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、利用者が安心して過ごす事が出来るように配慮している。また、大容量のクローゼットを完備し、広々として明るい居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、手すりを付け歩きやすい環境にしている。		